



◆5月1日頃移植のコシヒカリでは、幼穂形成期に入りました。出穂期までは間断かんがいを行いましょう。「基肥+追肥」体系の水田では、追肥の準備をしましょう。

◆早生品種では、もうすぐ出穂です。イネカメムシを寄せ付けないよう、出穂2週間前までに、畦畔周りの草刈りを行いましょう！



## 1. 今年の気象と水稻の生育状況

### 1) 気象 (平均気温・日照時間・降水量)

#### ◇平均気温

- ・4月は平年並み～高く推移しました。
- ・5月は連休明けにやや低くなりましたが、その後は平年並み～高く推移しています。

#### ◇日照時間

- ・4月は平年並み～やや多く推移しました。
- ・5月は連休には多くなりましたが、その後は平年並み～少なく推移しています。

#### ◇降水量

- ・4月は少なく推移しました。
- ・5月は7日と8日に30mmを超える降雨がありました。
- ・6月は第1半旬に台風2号の影響による記録的な大雨がありました。また、8日頃から梅雨入りしました。

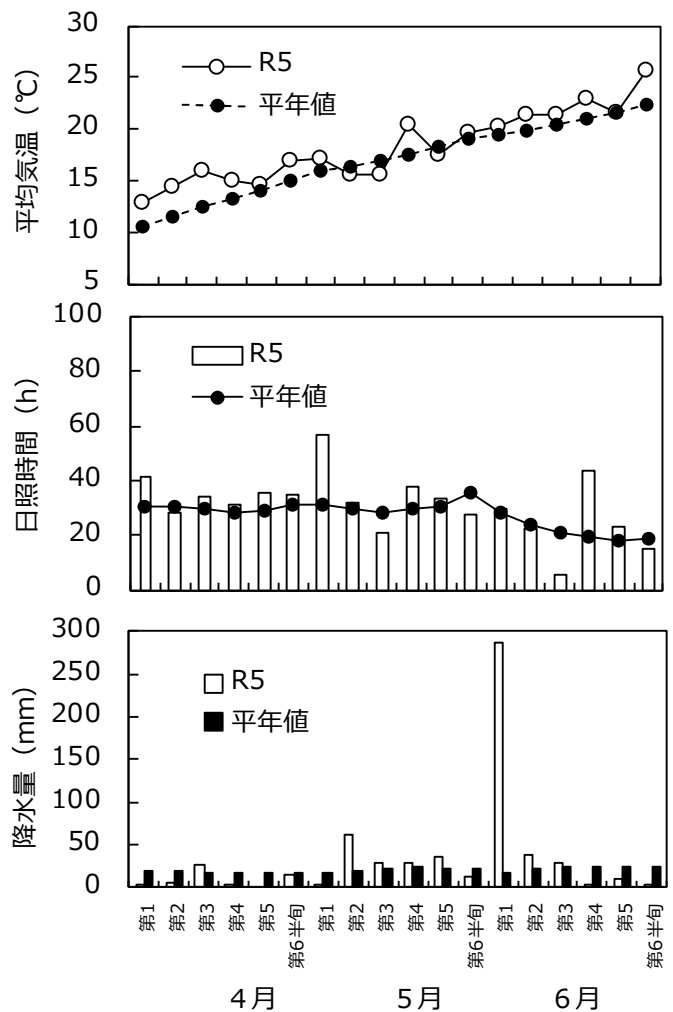


図1 平均気温・日照時間・降水量  
(令和5年つくば市館野アメダスデータより)  
(平年値は1991～2020年)

## おねがい

次年度より、郵送による水稻情報の配布ができなくなります。このため、本紙がご自宅あての郵便で届いている場合には、メールアドレスの登録をお願いいたします。

なお、メールでは研修会のおしらせなど役立つ情報の提供も行っております。

登録は、右記のQRコードまたは、[tsunofu@pref.ibaraki.lg.jp](mailto:tsunofu@pref.ibaraki.lg.jp) あてのメールにて「①お住いの市町村名」と「②氏名」をお知らせください。



## 2) 水稲の生育状況 (田植え後 60 日頃)

### ふくまるSL (早生品種) ~ 6月29日調査結果

- ・「ふくまるSL」の生育は、以下のとおりです。
- ・基肥+追肥体系の場合、適正生育量が確保されている場合には、出穂前18日(幼穂長5~10mm)を目安に追肥を行いましょう。
- ・生育量が不足している場合には、追肥時期を2~3日早め、窒素成分で最大3kg/10aを越えない範囲で増肥しましょう。

調査地点	田植	栽植密度 (株/坪) (畝間×株間)	草丈 (cm)	茎数		幼穂長 (出穂前日数)
				本/m <sup>2</sup>	本/株	
つくばみらい市	5/2	62 (30×18)	62	446	24	0.6mm (24~25日前)
取手市	5/1	64 (30×17)	70	572	30	1.5mm (21~23日前)
適正生育量			65~70	500~550		

※施肥量は「ふくまる栽培における全量基肥施肥診断技術」による。

### コシヒカリ (中生品種) ~ 6月29日調査結果

- ・コシヒカリの生育は平年値(過去5ヶ年平均)と比べ、草丈は平年並み~やや高く、葉色は平年並みです。

調査地点	調査年	田植日	栽植密度 (株/坪) (畝間×株間)	草丈 (cm)	茎数		葉色 (葉色板)	葉色 (SPAD)
					本/m <sup>2</sup>	本/株		
つくば市 上菅間	R5	5/2	55 (30×20)	68	643	39	3.6	34
	平年	5/1		69	526	-	3.9	34
つくば市 今鹿島	R5	5/1	50 (30×22)	70	632	42	3.5	34
	平年	5/1		68	560	-	3.7	33
つくばみらい市 中島	R5	5/1	61 (30×18)	73	542	30	2.7	34
	平年	4/30		70	625	-	3.1	34

※平年値は、過去5年間の数値より算出。

<今年の出穂予測> 7月23日頃(幼穂長1~1.5mm、出穂前25日前頃)と予測。

<平年の出穂期> 7月23~25日頃。

## 2. 今後の管理



### ポイント1 水管理について

幼穂形成期に入っている水田では、中干しを終了し、間断かんがいを行いましょ。出穂までは3~4日程度湛水管理（入水後、自然落水）し、落水状態で1~2日程度保つというサイクルを繰り返します。

出穂以降は、常時湛水や田面が完全に乾くほどの水分不足にしないよう気をつけて管理を行います。湛水の継続日数を2~3日とし、自然落水と入水を繰り返し、落水後は田面が乾く前に入水しましょ。

早期落水は品質低下（乳白粒や胴割れ粒など）につながりますので、「間断かんがい」は出穂後30日まで続けてください（最終入水は出穂期から27日以降）。

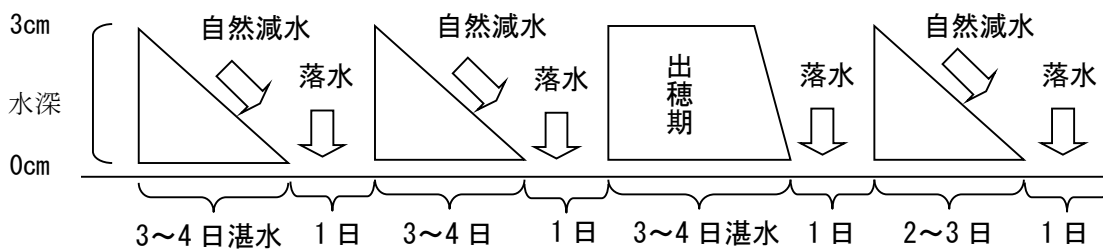


図2 「間断かんがい」のイメージ（出穂前後で入水・落水の期間は変化）

### ポイント2 適正生育量の範囲内にあるかどうか、確認してみましょう。

品種名	確認する時期	適正生育量	左記のように生育した場合の追肥量	作成
あきた こまち	①移植後50日 ②移植後60日	①茎数 500~650本/m <sup>2</sup> ②茎数×葉色=2,200程度 (茎数 500~600本/m <sup>2</sup> ) (葉色 3.5~4.0程度)	出穂前18日頃に 窒素 2~3kg/10a 施用	茨城県農業総合センター 農業研究所
ふくまる	移植後55~60日 (出穂前20日頃)	草丈 65~70cm 茎数 500~550本/m <sup>2</sup> 葉色 3.6~4.0程度	出穂前18日頃に(幼穂長 5~10mm) 窒素 3kg/10a	
コシヒカリ	出穂前20日頃	草丈 80cm以下 葉色 4以下	出穂前15日頃に(幼穂長 30mm) 窒素 1~2kg/10a	
夢あおば	出穂前25日頃	草丈 71cm以上	出穂前20日頃に窒素 5kg/10a	
		草丈 71cm以下	出穂前25日頃に追肥 または窒素 7kg/10a	
とよめき	出穂前	SPAD値 36~40	出穂前25~15日頃に 窒素 4~6kg/10a	機構 農研
ほしじるし	25~15日頃	SPAD値 35~40		

**ポイント3** 自分の水田の出穂予測をしてみましょう！

表1 コシヒカリの穂の発育過程と出穂前日数

発達過程		出穂前日数	およその幼穂の長さ	外形
穂が作られはじめる		32日		上から3枚目の葉がでてくる
籾の枝が作られる		28~26日		
幼穂形成期	もみ殻ができる	25日	1mm	上から2枚目の葉がでてくる
		20日	2mm	
		18日	15mm	止葉がでてくる(一番上の葉)
穂ばらみ期	花粉のもとができるはじめる	15~13日	4~6cm	
	花粉ができる	10~6日	10~20cm	

この時期にチェックしよう！

**ポイント4** カメムシ類対策

1. 畦畔周りや周辺の耕作放棄地のイネ科雑草の除草

※カメムシ類を水田内に追い込むことになるので、出穂2週間前までには終わらせましょう。



2. 薬剤防除

カメムシ類の薬剤防除 多発水田では、防除は2回実施しましょう！

**1回目 成虫の飛来期** …この時期に集中的に加害されると  
(出穂期~穂そろい期) **不稔(青立ち)になり、減収**につながります。

**2回目 幼虫の発生初期** …この時期に集中的に加害されると  
(乳熟期：出穂後10~15日頃) **斑点米の発生**につながります。

開花中(午前8~12時頃)は受精を悪くする可能性があるので、**早朝や夕方などに薬剤散布**しましょう。

### 3. 大雨や強風に、ご注意ください！



台風等による大雨や強風に対して、日頃から災害への備えを忘れずに行いましょう。

今の時期（幼穂形成期）における水稻の冠水は、生育初期に比べ、収量への影響が大きくなると考えられています（表2）。もし、冠水してしまった場合には、早期の排水に努めてください。また、一度冠水すると、病害虫の発生が懸念されるため、排水後は、病害虫の早期発見・早期防除を徹底してください。

表2 水稻の生育ステージと冠水被害程度（減収率）の目安

冠水日数（日）	1日	3日	5日	7日	備考
生育ステージ					
田植後7日	－%	－%	0%	10%	徒長、生育の遅れ
田植後30日（分げつ期）	－%	－%	20%	30%	枯死茎、生育の遅れ
幼穂形成期	－%	30%	60%	70%	幼穂枯死が多い

参考：茨城県農林水産部「農業災害対策の手引（昭和54年）」

#### 事前の対策

- ①排水路のつまり等がないか、点検を行いましょ。
- ②大雨の前に十分水を落とす上で、一定量以上の水かさになると落水する対策をとっておきましょう。

なお、台風通過や道路冠水中などのとき、**絶対に、**

**ほ場や水路の様子を見回りに行かないでください！**



#### 水稻の冠水対策

- ①一刻も早く排水するように努める。完全に排水できなくても穂や葉の一部が水面上に出ると被害が軽減される。濁水が停滞している場合は、濁っていない水の流入を図り、新根の発生を促す。
- ②冠水被害を受けた稲体は水分調節や肥料吸収等の機能が低下することから、根の活力を保つよう排水後は新しい灌漑水を入れ、水を切らさないよう水管理を徹底する。
- ③冠水後は、黄化萎縮病や葉いもち、白葉枯病等の病害が発生しやすくなる。特に、黄化萎縮病の罹病株は、高い確率で葉いもちが発生するので、圃場を十分に観察し、早期発見・早期防除を徹底する。（次ページへ続く）

### 水稲の冠水対策(つづき)

＜冠水後の肥培管理＞

- 「全量基肥肥料（「コシー発かんだ君」など）」の体系の場合には、追肥は行わない。
- 「基肥＋追肥」の体系の場合には、追肥は生育状況を見ながら行う。追肥時期は、県の栽培基準に準ずる。  
（※コシヒカリであれば、出穂前15日頃（幼穂長30mm）。  
茎数が通常よりも少ないと考えられるため、追肥は窒素成分で2kg/10a以下にとどめる。



＜冠水後の除草剤の散布＞

- 雑草の発生状況を見て散布する。
- 「収穫前使用日数」には十分注意する。  
ラベルの記載内容以外には使用しない。



ラベルをよく確認しましょう！

## 4. 先進事例研修のお知らせ

～「水田高収益化および省力化に関する先進事例研修（かんしょ・水稲）」を開催します。

研修では、五霞町の(有)シャリー（かんしょ約20ha、水稲約80ha）を視察します。

日時	令和5年7月14日（金）13：00～15：30
場所	五霞ふれあいセンター（猿島郡五霞町江川179-1）および現地ほ場 ※雨天の場合、室内検討のみとなります。
内容	かんしょ：高収益作物として水田で栽培。 中耕培土、傾斜化による排水性向上、生分解性マルチの取り組み。 水稲：ドローン直播技術による省力化。
申込み	つくば地域農業改良普及センターまで、ご連絡をお願いいたします。

